

五三六七

方位

五三六八 「方位」

塊然たる其の處。物は之を得て居る。然り而して

五三六九

物は則ち神を得て活す

五三七〇

神は則ち物を得て立す

五三七一

塊塊は位を得ざれば、則ち争でか能く、物を容れん

*五三七二

活動は方を得ざれば、則ち焉んぞ能く其の神を行わん、故に

*五三七三

位なる者は、立つ所の地なり、

五三七四

物は處を得ざれば則ち居らず、

五三七五

位を得ざれば則ち立たず、

五三七六

植は地に著きて立つ、

五三七七

動は地に依りて立つ、

五三七八

依著は異なると雖も。而も之を立つるに地に由るに於ては則ち同じきなり。

五三七九

我と物と。已に位に由りて立つ。小に由りて大を察するに。

五三八〇

天地は位を得ざれば則ち立たず。故に

五三八一

天は地を得て居る、

五三八二

地は中を得て立つ、故に

五三八三

外は容れざる所莫し、

五三八四

中は載せざる所莫し、

五三八五

方なる者は、行く所の路なり、

- 五三八六
- 五三八七
- 五三八八
- 五三八九
- 五三九〇
- 五三九一
- 五三九二
- 五三九三
- 五三九四
- 五三九五
- 五三九六
- 五三九七
- 五三九八
- 五三九九
- 五四〇〇

くるまをおき、すなわはこ、ふねをうかぶれば、すなわみず、ゆえに

上に在らざれば、すなわしたなり、

ひだりあに在らざれば、すなわみぎに居る者は、いもつてせざることをあた

くるまを、すなわきしたが、ふねを、すなわかぜしたが、ゆえに

ひがしほうに、すなわにし

したが、いすなわつりあ、いものほうもつてせざる能わず、

いはもと、いぶつ、もつ、こ

ほうろを、すなわき、もつ、こ

うちゅうなるものは、けい、い

じの、こん、ぜんご、ほう

しよ、お、ちゆうがい、い

とも、そ、せい、もの

しん、てんじ、あらわ

いよ、そ、ほうい、よ

(1438a)